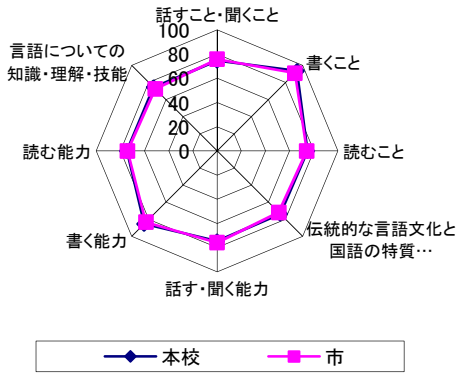


宇都宮市立岡本小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	74.7	75.9	72.1
	書くこと	93.5	91.0	79.2
	読むこと	74.7	74.1	71.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.7	72.0	73.0
観点別	話す・聞く能力	74.7	75.9	72.1
	書く能力	85.4	83.3	72.2
	読む能力	74.7	74.1	71.1
	言語についての知識・理解・技能	74.3	72.5	72.8

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

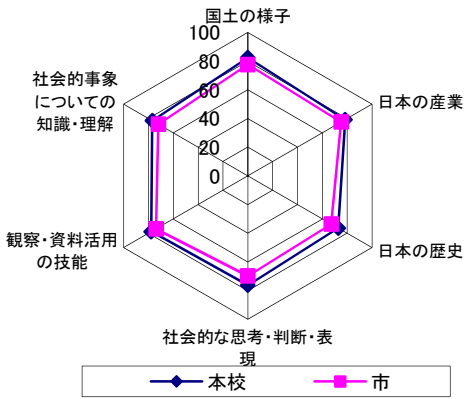
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均正答率をやや下回っている。 ○話し手の意図を問う設問や、司会者の役割を問う設問の正答率が高い。話を聞かときのポイントや司会を行うときのポイントを明らかにし、意識させながら話し合いを行うことにより、身に付いてきたと考えられる。 ●司会者として、計画的に話し合いをまとめる方法を問う設問についての正答率が低い。	・学習活動全体において、話の中心や構成に気を付けて聞くように指導し、話し手の考えをとらえられるようにするとともに、自分が話すときにも構成を意識して話すようにさせる。 ・司会を行うときには、話し合いの目的を意識させ、話し手の要点をメモさせたり、見通しをもたせて進行させたりすることで計画的に話し合いをまとめることができるようにする。
書くこと	市の平均正答率を上回っている。正答率も高い。 ○作文における正答率が高い。長さや段落構成、意見と理由を区別して書くなどの条件を守り、文章を書くことができています。 ●与えられた情報を読み取り、適切な内容を補って文章を書く設問についての正答率が低い。	・長さや段落構成などの与えられた条件の中で文章を書いたり、自分の意見とその理由を区別して書いたりする活動を繰り返し、書く力の更なる向上を図っていく。 ・複数の情報の中から必要な情報を読み取り、自分の意見を書くときには、その根拠となった部分を振り返らせ、資料の中の言葉を使ってまとめさせることで、定着を図っていく。
読むこと	市の平均正答率をやや上回っている。 ○登場人物の心情や文と文の相互関係を問う設問についての正答率が高い。登場人物の行いを整理したり、接続語の使い方を例文を使って確認したりすることで、身に付いてきたと考えられる。 ●登場人物の心情や場面の描写など、叙述を味わいながら読むことができる児童が少ない。	・登場人物の気持ちを読み取る際には、必ず根拠となる部分の叙述を明らかにさせたり、情景描写からも考えさせたりする。 ・朝の読書だけではなく、家庭学習などにおいても読書を推奨し、多くの物語に触れさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均正答率を上回っている。 ○「講演」や「困難」を読む設問についての正答率が高い。また、「罪」や「築く」を書く設問における正答率も高い。朝の学習や家庭学習を活用し、復習をしたり間違えを正しく理解し直したりすることにより身に付いてきたと考えられる。 ●謙譲語の使い方を問う設問や第5学年配当漢字の「評価」を書く設問における正答率が低い。	・授業や朝の学習、家庭学習において、現学年の漢字の読み書きを練習させるとともに、前学年の配当漢字も計画的に練習させ、漢字を読んだり書いたりする力の定着を図る。また、習った漢字は使って書くという習慣を身に付けさせていく。 ・敬語については、日常会話の中で教師が取り上げて紹介したり、同じ言葉を尊敬語や謙譲語に直す活動を行ったりして、定着を図っていく。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	82.4	77.6	77.6
	日本の産業	78.3	75.1	67.5
	日本の歴史	72.8	67.2	62.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	76.2	69.7	64.7
	観察・資料活用 の技能	77.8	73.8	68.5
	社会的事象について の知識・理解	76.9	72.0	67.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

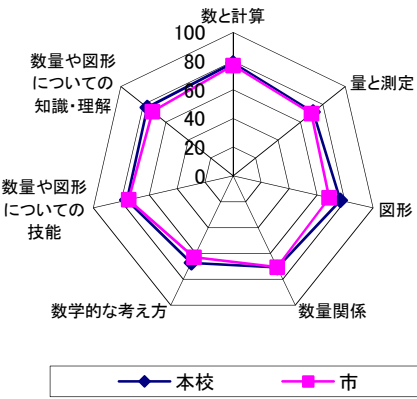
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	市の平均正答率を上回っている。 ○日本を通る台風の数を示したグラフについて把握する問題での正答率が特に高く、十分理解できていると言える。 ●日本の国土や位置について問う問題の正答率が低い。	・重要事項を復習するとともに、自分たちの生活と環境との関わりについて、新聞の記事やテレビのニュースなどを紹介したり、日常的に地図帳を活用させたりすることなどによって、国土や自然に対する関心を高める。
日本の産業	市の平均正答率を上回っている。 ○自動車生産工程についての理解が深く、高い正答率を示し、十分定着が図られている。 ●日本の工業の移り変わりについて、適切な資料を選択する問題の正答率が低い。	・資料集などを活用し、資料やグラフの見方についてさらに理解を深める。 ・日本の産業についての学習を、プリント等で復習し、定着を図りたい。
日本の歴史	市の平均正答率を上回っている。 ○歴史上の主な人物や出来事に関する知識を問う問題についての正答率が高い。資料集やデジタル教科書を活用することにより、より具体的にイメージ化することができたと考えられる。 ●明治時代に活躍した人物についての理解が低く、正答率は低かった。	・各時代の主な人物や出来事などについて確認するとともに、その人物が行ったことや出来事が、世の中や人々の生活をどのように変化させたのかについても、あわせて確認させ、理解を深める。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.8	77.0	70.4
	量と測定	71.3	69.8	68.5
	図形	76.7	68.6	72.4
	数量関係	70.9	70.6	60.4
観点別	数学的な考え方	67.3	63.0	54.8
	数量や図形についての技能	76.0	74.7	67.3
	数量や図形についての知識・理解	76.6	72.0	74.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(算数では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

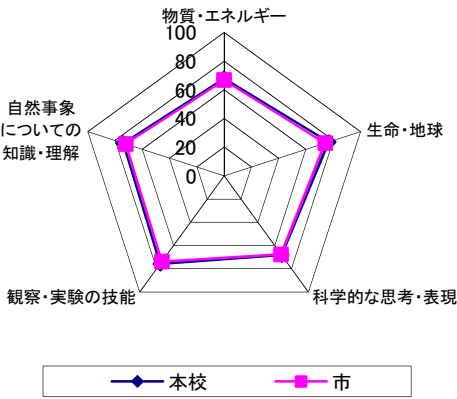
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	市の平均正答率をやや上回っている。 ○小数・分数の乗法や除法のほとんどの問題において90%近い正答率を示しており、計算する力は定着していると言える。朝の学習や家庭学習等において繰り返し練習することで身に付いてきたと考えられる。 ●文章問題の式の意味を考える設問の正答率が低く、文意を読み取ることができないと言える。	・引き続き四則計算の基本的なやり方を復習する。正しく計算できるよう朝の学習や家庭学習において繰り返し練習し、定着を図る。 ・文章問題では、問題文にある数値の関係をとらえるために、図をかいたり、簡単な整数に置き換えて考えたりできるよう指導していく。
量と測定	市の平均正答率をやや上回っている。 ○時速を求める問題の正答率は高く、繰り返し練習問題に取り組んだ成果と言える。また展開図から円柱の体積を求める設問の正答率も高く、面積や体積を求める公式が定着しつつあると言える。 ●時速を分速に直す問題の正答率が低く速さの単位の関係についての理解が不十分と言える。	・単位量あたりの大きさの学習では、線分図や図に表して課題を具体的に捉え、見通しを立てて解決できるようにする。 ・面積や体積を求める学習では公式をしっかりと確認し、繰り返し練習することで定着を図る。 ・速さ・時間・道のりを求める公式を確認し、多くの問題に取り組ませることで定着を図る。また、速さの単位についても時間の関係を確認させることで理解を深める。
図形	市の平均正答率を上回っている。 ○合同な図形を作図する設問や展開図を組み立てたときに重なる頂点を答える設問については正答率が高く、立体についての理解は十分と言える。 ●円の半径から円周を求める設問の正答率が低く、定着が不十分である。	・図形の持つ特徴を再確認し、具体物を使って操作する活動を通して定着を図る。 ・線対称や点対称な図形では、繰り返し作図させることによって対応する点についての理解を深める。
数量関係	市の平均正答率とほぼ同じである。 ○文章を読んでそれを文字を使った式に表すことはおおむね身に付いている。また、帯グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題は市の正答率をやや上回る結果となった。 ●帯グラフから割合を読み取る問題は市の平均を下回る結果となった。	・帯グラフから割合を読み取る問題では、全学年の学習内容である百分率について復習するとともに、他教科等でも百分率で表された数値やグラフなどに着目させ、読み取らせることによって理解を深める。 ・比を使って必要な量を求める問題においては、文章問題に数多く取り組ませることによって、文章や資料から正しい情報を読み取る力を養う。

宇都宮市立岡本小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	67.9	66.8	63.6
	生命・地球	76.6	74.0	75.3
観点別	科学的な思考・表現	68.2	67.6	65.0
	観察・実験の技能	75.8	73.8	70.4
	自然事象についての知識・理解	73.9	72.1	73.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	市の平均正答率を上回っている。 ○ろ過した液から食塩を取り出す方法を問う設問やふりこの1往復の動きを問う設問についての正答率が高い。朝の学習や授業で復習する時間を確保することで、あやふやになっていた事柄についても、再度確認することができたと考えられる。 ●水溶液の性質とはたらきに関する設問の正答率が低い。	・朝の学習や授業において復習する時間を確保し、さらなる定着を図っていく。また、授業でこれまでとつながりがある内容を学習するときには、これまでの学習の内容や実験方法などを想起させ、学習のつながりをもたせていく。 ・水溶液の性質とはたらきについては、重要事項を復習し、練習問題を解かせることによって定着を図る。
生命・地球	市の平均正答率を上回っており正答率も高い。 ○月の見え方や蒸散の行われている場所、人や魚の呼吸器官を問う設問についての正答率が高い。授業の始めにめあてを明確に示すことで、実験・観察も正確に行うことができ、正しい知識を身に付けることができたと考えられる。 ●酸素を多く含む箇所や植物の水の通り道を問う設問の正答率が低い。	・授業の始めには、明確にめあてを示し、実験や観察の際にも意図や注意点を具体的に提示し、正しい手順で正確な結果を導き出せるようにする。また、考察についても、自分で考えたり話し合ったりして言葉でまとめる活動を多く取り入れていく。 ・動物の体の働きや植物の体の働きについては、図で理解させたり実験の様子を想起させたりすることで定着を図る。